

花壇を江津湖に ～ビオトープ池で生物保全～

真和中学校 1・2年 生物部

1 目的 外来生物が入ってくる前の、在来の動植物たちが見られた頃の江津湖を花壇に復元しようと、つぎのようにビオトープ池を作り、あわせて、かつて江津湖周辺にかつてふつうに見られた動植物たちを栽培飼育しながら、生物多様性の保全に取り組んできました。

2 方法

(1) 円形花壇時代 2005～2012 年

真和中学校高等学校花壇にある円形花壇の土を掘り、さらに防水シートを張って水を満たして池としました。そこに、江津湖周辺の水田用水路で採集した動植物たちを入れ「ミニ江津湖ビオトープ池」としました。周りの木枠は、ヤゴが水中から登って羽化して成虫になるときに使われます。

(2) 角形花壇時代 2012～2015 年

円形花壇の隣にある、より大きな角形花壇にビオトープ池を移しました。水深は3段階で、深さを変えて環境作りをしています。また、給水と排水ができます。

3 結果

ビオトープ池のいきものたち

クロモ、大賀ハスを除き、加勢川支流や用水路など、熊本市内で採取されたものです。

動物 メダカ ニッポンバラタナゴ

ドブガイ イシガイ シジミ類 sp. ミナミヌマエビ トンボ類幼生 など

植物 コウホネ ミズアオイ コナギ ヨシ マコモ ヒシ ヒラモ ヒメガマ
ハンゲショウ タコノアシ など

国内移入種 現在保全している種のうち、クロモは熊本県荒尾市上平山の水田用水路湧水地で2012年に採集したもの、大賀ハスは千葉県の上野から発掘されたものです。

4 コウホネの保全 離弁花類スイレン科のコウホネ

Nuphar japonicum は、熊本県版レッドリストで絶滅危惧ⅠB類に指定されています。かつては江津湖周辺の用水路でふつうに見られました。現在ビオトープ池で保全してきたコウホネを、2016年3月に熊本市動植物園を流れる湧水の水路に移植して、これから永く保全していくことが決まりました。これは、真和中学校生物部と熊本市動植物園・熊本市環境共生課の協同による生物多様性保全への取り組みです。



5 参考文献 続・水郷画図の歴史（画図町史刊行会、1985）緑川水系河川整備計画（国土交通省九州地方整備局、2013）、日本水草図鑑（角野康郎、1994）、日本の淡水魚（川那部浩哉他、2001）、保全と復元の生物学（矢原徹一他、2002）、水辺環境の保全（江崎保男他、1998）、メダカとヨシ（佐原雄二、2003）